● OKAZAKI CITY

岡崎市版 重層事業と 住まい支援

住宅セーフティネット制度と
居住支援の取組



ふくし相談課

市民生活のリアル

01
困窮する兄弟（障がい者とひきこもり）

母は次男からの虐待にて入所中。長男は障がいがあり障がい福祉サービスを利用していたが、65歳で介護保険に移行。費用が払えず、ヘルパー週1回のみ利用。受診できず障がい年金が切れてしまい収入が途絶える。電気代、水道料金も払っていない。お風呂も壊れており入れない。次男は、ひきこもり、長男が買い物に行かないと食べるものもない。

＃生活困窮＃障がい＃ひきこもり＃兄弟＃ゴミ屋敷＃高齢者虐待

02
8050問題　高齢者を介護する中学生

母が介護サービスの利用をしたことで、ケアマネジャーがひきこもりの息子がいることを把握する。要支援認定を持つ父が認知症の妻を介護しており、介護負担が大きいが、年金収入しかないため、サービスを増やすことも難しい。

＃8050問題＃ひきこもり＃老々介護＃生活困窮＃認知症

03
家族の年金に頼る就職氷河期世代

本人は非正規雇用で働いていたが、ギャンブルで使ってしまい、母の預貯金や妹の障がい年金に頼っていた。母が介護が必要となり、介護施設に入所。自宅生活が難しくなり、妹も障がい者施設に入所となる。本人は、新型コロナウイルスの影響で失職し、生活保護となる。

＃ギャンブル依存＃生活保護＃障がい＃要介護＃経済的虐待

04
母ではなく祖父母と暮らす小学生

母が再婚するもネグレクト、子どもは曾祖父母と暮らすことを選択する。曾祖母が認知症で要介護状態となり、曾祖父がひ孫の世話と認知症介護をしている。

＃ネグレクト＃認知症＃老々介護＃再婚

岡崎版　重層的支援体制整備事業

福祉総合相談体制

個別課題も複合課題もまるごと受け止め、つながり続ける支援

断らない相談

- 断らない相談窓口として世代や属性を超えた相談を受け止めます。
- 当該支援機関のみでは解決が難しい場合には必要な機関につなぎます。

社会とつながる参加支援

- 既存の福祉サービスでは対応できないニーズに対応するため、福祉分野以外も含めた地域資源の開拓・調整を行い、支援につながっていない人の社会参加を実現します。

地域づくりに向けた支援

- 世代や属性を超えて交流できる場や居場所を整備し、交流・参加・学びの機会を生み出すために個別の活動や人をコーディネートします。

相談支援包括化推進員が

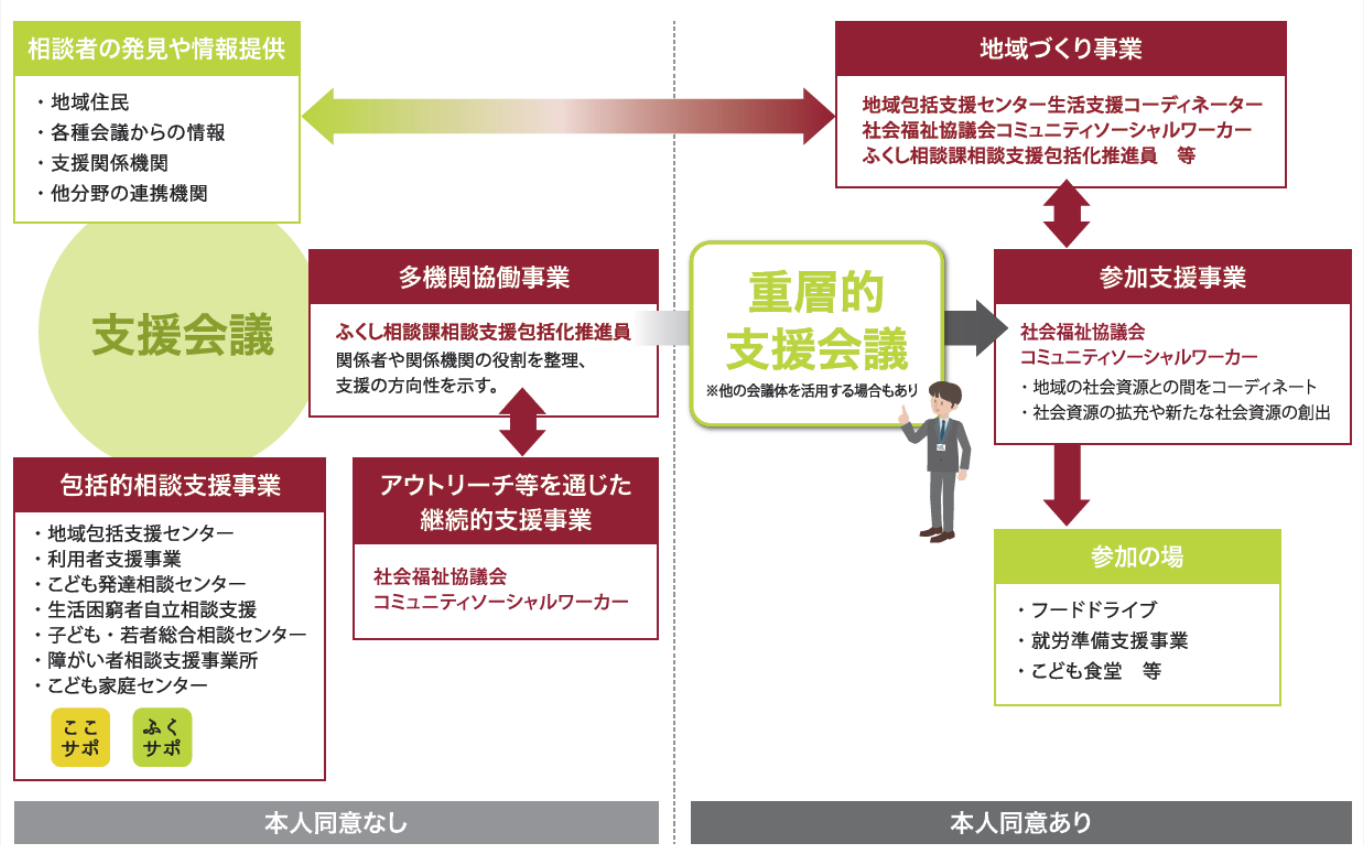
- 断らない相談
- 社会とつながる参加支援
- 地域づくりに向けた支援

３つをコーディネート

とりまとめ　福祉部ふくし相談課



重層支援の流れ


相談者の発見や情報提供
・地域住民
・各種会議からの情報
・支援関係機関
・他分野の連携機関
地域づくり事業
地域包括支援センター生活支援コーディネーター
社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー
ふくし相談課相談支援包括化推進員　等
支援会議
多機関協働事業
ふくし相談課相談支援包括化推進員
関係者や関係機関の役割を整理、
支援の方向性を示す。
重層的
支援会議
※他の会議体を活用する場合もあり
参加支援事業
社会福祉協議会
コミュニティソーシャルワーカー
・地域の社会資源との間をコーディネート
・社会資源の拡充や新たな社会資源の創出
包括的相談支援事業
・地域包括支援センター
・利用者支援事業
・こども発達相談センター
・生活困窮者自立相談支援
・子ども・若者総合相談センター
・障がい者相談支援事業所
・こども家庭センター
ここサポ
ふくサポ
アウトリーチ等を通じた
継続的支援事業
社会福祉協議会
コミュニティソーシャルワーカー
参加の場
・フードドライブ
・就労準備支援事業
・こども食堂　等
本人同意なし
本人同意あり

重層事業における多機関協働事業・参加支援事業の支援事例

課　題

- 認知機能の低下した母を施設に入所させたい
- 母の年金に依存し、ひきこもり暮らしの息子に関わってくれる支援機関がない

地域包括からの相談

- 地域包括が80代の母に関わっている。
- 認知機能の低下が著しく、在宅生活が難しい

母が入所すると、ひきこもり状態の子が心配

- ひきこもり、障がい手帳も未所持
- どこが支援に関わっているかも分からない

重層会議の実施

- 課題の整理

地域住民や関わっている関係機関調査

母と民生委員が知人関係であることが分かる

包括の過去の記録から子の通院歴が分かる

- 方針の共有

子の通院の阻害要因を確認する

子を相談支援事業につなぐことを目標と設定

子への接触方法を母含めて話し合う

参加支援の関わりスタート

- 過去に通院が途切れてしまった経緯
- 世帯のお金が心配になった
- 母の状態について説明を繰り返し、医療助成が受けられるまでの間民生委員が送迎してくれる事が決まる
- 医療機関に支援員が帯同コミュニケーションの手伝いや受診の目的等を説明を繰り返し実施

ふくし相談課に相談すれば解決するではなく、一緒に考えてくれる人が増えるを目指す

住まい支援センターの設置に向けて

当時のイメージは
相談しても対応してもらえない窓口

立ち上げ時の様子

従来の方法は、住まいサポート岡崎で相談を受け付け、その都度担当者がふくし相談課を訪れ、どこが関わってる？から調査し対応方針を協議するスタイルで実施。

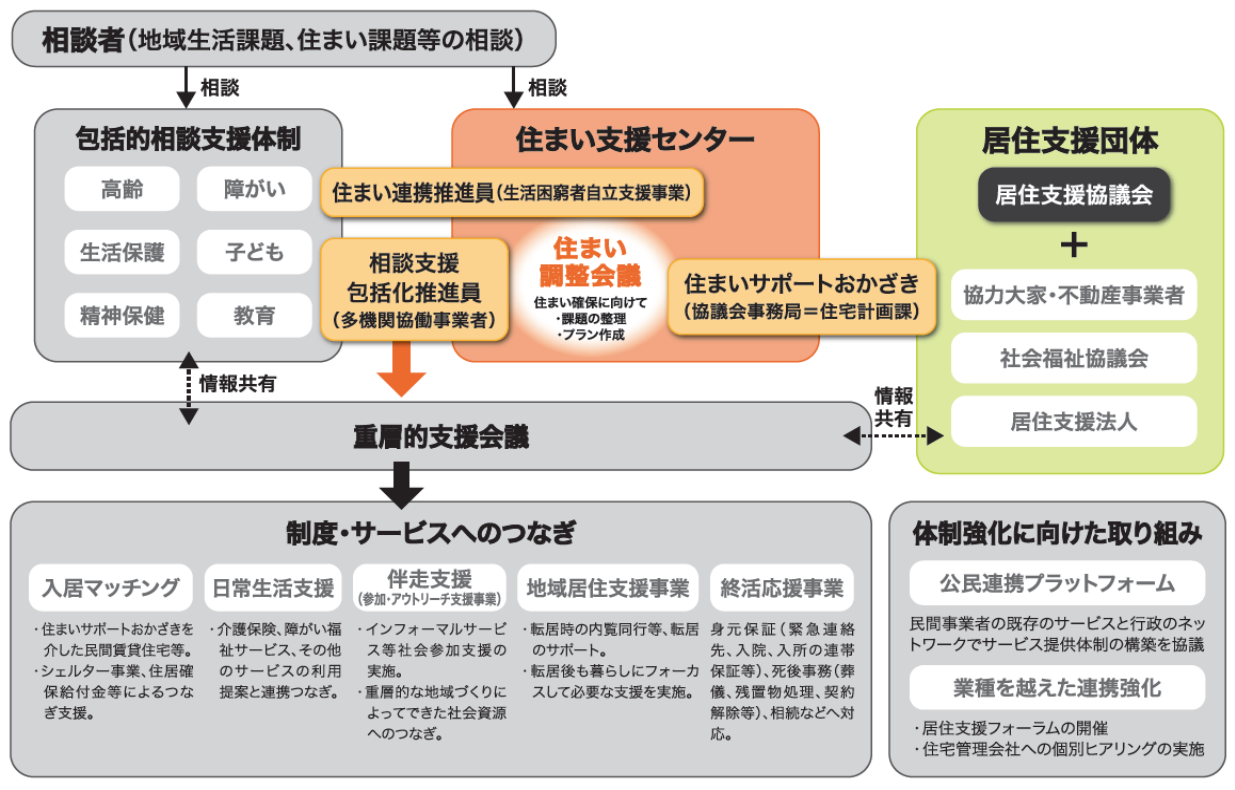
住宅部局では立ち上げ当初から、福祉部局で転居に関する諸課題が整理されてから住まい支援を実施するとの説明を継続。



住まいに困窮する要配慮者

住まい支援センター

令和５年度に地域共生社会づくりのための「住まい支援システム」構築に関する調査研究事業モデル事業に採択いただき
令和６年１月に住まい支援センターを立ち上げました。



支援実績

103件

令和６年度相談件数

プラン作成件数　30件
マッチング件数　46件
プランは住まい連携推進員により作成
マッチングは物件照会に至った数

重層的な住まい支援事例

課　題

- 万引きで何度かめの収監を受けた刑余者の行き先がない
- 出所後も再犯の可能性が極めて高い

刑務所からの相談

- 窃盗その他累犯で10年以上刑務所生活。
- 過去にバイク事故の影響から精神障害手帳を所持している。
- 今回の収監以前は岡崎で生活保護を受給。
- 従前のアパートは逮捕時に家主から解約の連絡を受けている。

住まい調整会議の実施

- 課題の整理

在監中に何度か面談を行い、万引きのきっかけや当時の状況等聞き取る。お金が無くなった事以上にさみしさから服薬調整等乱れ万引き行為に及んだことが聞き取れる。

- 支援方針

障がいグループホームを実施する法人の建物の別フロアで実施している自費宿泊可能は居室をお借りし制度利用準備を行う。

フォローアップ

- グループホーム職員の見守りで生活継続
- 服薬管理のため訪問看護利用開始
- 地域定着支援センター担当者とも引き合わせ相談できるところを知ってもらう努力を主にしてもらう。
- サービスが整い次第、アパート探しと必要により緊急連絡先支援を実施。

引っ越した後の暮らしに注目した支援方針の組み立てを意識する。

生活再建型債権管理事業

生活困窮者

債権管理部局

行政の公債権

- 税金滞納
- 国保料滞納
- 住宅使用料滞納
- 給食費滞納
- 水道料滞納
- 市民病院医療費滞納　など

私的債権

- 家賃滞納
- 住宅ローン滞納
- カードローン滞納
- 電気、ガス代滞納
- 携帯電話代滞納
- 消費者金融滞納　など

連携

債権連携会議

重層的支援会議や生活困窮者自立支援事業における支援調整会議の立て付けを活用し連携会議を実施

制度福祉

生活困窮者自立支援制度

- 困窮者自立相談
- 家計改善
- 就労準備支援
- 地域居住支援
- 住居確保給付金
- 一時生活支援
- 生活保護
- 生活福祉資金

重層的支援体制整備事業

- 多機関協働事業
- アウトリーチ事業
- 参加支援事業

生活困窮状態からの脱却

連携会議にかけることで債権の状況把握が可能となり、早期に生活基盤を整え滞納状況からの脱却を目指す取り組み

まとめと今後の展望

これまでの取組の成果

- 庁内及び地域包括支援センターに相談窓口として定着
- 「協力大家、不動産事業者から課題整理の目的で住まいサポートおかざきを案内されるケースが増加
- 住宅部局と福祉部局での協働が定着している

今後の課題と展望

- 一時的な避難が可能な拠点の整備
- 住まい支援に係る資源不足
- 新たな関係機関への周知啓発

お問い合わせ先

岡崎市 福祉部 ふくし相談課 つながり支援係

〒444-8601 岡崎市十王町2丁目9番地

TEL: 0564-23-6774 / FAX: 0564-23-7987